

研修医の皆さんへ

天理よろづ相談所病院乳腺外科

乳腺外科の診療範囲は外科の従来ofワケにとどまりません。予防から検診、全身治療、緩和ケアまで、関連領域と様々な視点を共有し、連携を発展させつつある領域です。全人的医療の入り口と言えるかも知れません。

以下に当院乳腺外科の後期研修（卒後3年目以降のシニア・レジデント）の研修内容を紹介致します。新たなチームメイトをお待ちしています。

乳腺外科 研修コース

特徴

本コースは院内乳腺グループの連携を重視し、外科にとどまらず広い視野を備えた臨床医を目指すコースです。

カリキュラムの概要

研修期間は4年間で関連科である外科専門医を取得します。この間に、日本乳癌学会認定医（5年目）の申請に必要な研修を修了し、乳癌学会専門医（6年目）の取得を最短で目指します。

関連科との連携

乳癌治療は手術では乳房の温存手術、腋窩はリンパ節郭清にかわるセンチネルリンパ節生検など手術の縮小が近年の潮流です。

手術の生命線は適応ですが、さらに乳癌手術の縮小では関連部門との連携が不可欠です。各種画像診断と病理組織学的評価の理解の上に、手術のみならず放射線療法や全身療法の適切な適応が可能になると言えます。

院内乳腺カンファレンス（毎週金曜日）

当院では1994年から、院内乳腺カンファレンス（病理部、放射線科、細胞診室、超音波室、外科）の検討をもとに乳癌診療を行なっています。このカンファレンスを通して乳癌外科医に求められる問題解決能力をみがき、患者中心の

医療を実践しうる乳癌専門医の基礎を築きます。

施設認定

日本外科学会 専門医修練指定施設

日本乳癌学会 専門医認定施設

日本病理学会 研修認定施設 [A]

日本医学放射線学会 放射線科専門医制度修練機関

日本超音波医学会 認定超音波専門医制度研修施設 など

乳腺外科修練カリキュラム

シニアレジデント 1年目

乳房切除術の助手か執刀、乳房部分切除術の助手を担当する。

術後補助療法を立案し実行する。

乳房超音波検査、乳腺吸引細胞診を適切に実施し評価する。

消化器外科小手術の助手あるいは執刀を行なう。

年に少なくとも1回の研究発表を行なう。

日本乳癌学会、日本外科学会の修練開始登録を行なう。

同 2年目

乳房切除術の執刀、乳房部分切除術の助手か執刀を担当する。

再発症例の治療方針を決定する。

症例検討会で各種画像と病理所見を対比する。

消化器外科中手術の助手を行なう。

年に少なくとも1回の研究発表を行なう。

マンモグラフィ講習会に参加する。

同 3年目

乳房部分切除術、センチネルリンパ節生検の執刀を担当する。

症例検討会を開催し診断と治療方針について立案できる。

合併症を有する外科症例の管理を行なう。

年に少なくとも1回の研究発表を行なう。

日本外科学会専門医の予備試験を受ける。

同4年目

術前化学療法への適応を述べ、効果を評価して術式を決定する。

院内勉強会を主催し、関連科との連携ができる。

関連科の研修を行なう（呼吸器外科、心臓血管外科など）。

年に少なくとも1回の研究発表を行なう。

日本外科学会専門医の面接試験を受ける（外科専門医取得）。

以降、京大乳腺外科マグネット病院研修を継続

乳腺外科修練5年目

日本乳癌学会認定医を申請する。

乳腺外科修練6年目

日本乳癌学会専門医を申請する。

週間スケジュール

1) 手術	(月、木)	
乳腺外科	乳癌専門医の申請に必要な手術を経験する	
1年目	乳房切除術の助手か執刀、乳房部分切除術の助手	(50例)
2年目	乳房切除術の執刀、乳房部分切除術の助手か執刀	(50例)
3年目	乳房部分切除術、センチネルリンパ節生検の助手か執刀	(50例)
4年目	術前化学療法後の手術	(10例)
外来手術	(火、木)	(50例)
関連科研修	外科専門医の申請に必要な手術を経験する	(最長6ヶ月)
	消化器外科	(50例以上)
	心臓血管外科	
	呼吸器外科	
	他の関連科	

2) 検査 (水、金)

乳腺吸引細胞診

乳房超音波検査

3) 化学療法 (木：外来化学療法室)

4) 抄読会 (火：7:30～)

4) 回診 (金：7:30～)

5) 乳腺カンファレンス (金:18:30～)

参加部門：病理部門、放射線科、細胞診室、超音波室、外科

検討内容：外来の乳腺腫瘍症例の検討

術前・術後症例の検討

診断困難例の検討

以上、当院乳腺外科の紹介を致しました。

改めてまとめると、「充実した1週間」と「快い週末」が特徴で、最短での乳癌学会専門医の申請が可能です。

新たなチームメイトをお待ちしています。

以上(文責:西村理)